

平成 20 年度 (第 39 回)
兵庫県社会人都市対抗サッカー大会の記録
神戸市代表チーム

神戸市代表、見事 5 年ぶりの優勝！
二度のピハインドを跳ね返し総力戦で西宮代表に 4 対 3 の劇的勝利！

【試合日時】平成 21 年 2 月 22 日 (日) 14 時 30 分 kickoff (40 分ハーフ) < 姫路市立陸上競技場 >

【試合結果】4 : 3 (前半 0 : 0 / 後半 0 : 1 0 : 2 1 : 2 2 : 2 2 : 3 3 : 3)
(10 分ハーフ延長前半 0 : 0 / 延長後半 1 : 0)

【得点者(アシスト)】 高須 (中尾) 松本 (高須) 村山 (-) 中尾 (九鬼)

スタメン				試合終了時			
11	9			20	13		
鳥越	松本			村山	中尾		
19		8		8		18	
藤井		高須		高須		藤本	
	10	7			10	3	
	曾我部	辻本			曾我部	川井	
5	4	2	13	17	4	22	2
吉井	西浦	九鬼	中尾	岩井	西浦	米田	九鬼
		21				21	
		吉岡				吉岡	

【感想】二度のピハインドを跳ね返し延長戦での逆転勝利、神戸代表チームの粘り強さと団結力がもたらした優勝であり、見応え十分のナイスゲームであった。

試合は雨が降りしきる中行われた。芝グラウンドのコンディションは最悪で神戸の特徴である速いパス交換やドリブル突破が思うようにできず、前半は大きく前線へ蹴って相手に拾われる苦しい場面が多かった。

修正後の後半は一転、味方選手との距離を縮めて確実に短いパスをつなぎ前線の F W にくさびのパスを入れ、サイドを駆け上がった D F に繋いで速いクロスを入れる従来のスタイルに戻った。そんな中、不運にも後半早々立て続けにコーナーキックとフリーキックのこぼれ玉を押し込まれ 2 点のピハインドとなった。一瞬場の雰囲気は凍ったが神戸の選手・スタッフは慌てなかった。前線へロングボールを放り込むことなく確実に自分たちのつなぐサッカーを続けその後 10 分で同点に追いつき、試合は完全に神戸ペースとなった。

しかしまたもや不運が訪れる。神戸が枠内シュートを何本も放つものの防戦一方の相手選手にことごとく当たり、そのうち 1 本が大きく蹴り返されカウンター攻撃を食らう。なんとか D F が競り合ったもののこぼれ玉を押し込まれ、残り 10 分を切った段階でまたも

1点のビハインド。さすがにこの時ばかりは神戸敗戦のムードが競技場に漂った。

しかし、ここからドラマが生まれる。神戸の選手は焦らずつなくサッカーを続ける半面、ペナルティーエリア付近ではドリブル突破を仕掛け積極的にシュートを撃ち始めた。これが功を奏し、後半残り5分に待望の同点ゴールが決まった。この時神戸の勝利を確信した。

雨の中走り続けた選手にはかなりの疲労が溜まっていたが、全員で優勝するという選手のモチベーションは最高潮に達し、延長後半残り5分、DFからの長いスルーパスに抜け出したFWが劇的な決勝弾を決めた。

今回優勝できた要因の一つは、ピッチ上の選手・ベンチの選手・スタッフ・応援者すべてが一体になれたことだ。選手の積極的なフェイントやドリブル、速いクロス、体を張った競り合いなどそのワンプレー・ワンプレーを皆が歓声を上げて応援していたし、今日の決勝戦はまるで高校時代のサッカー部の盛り上がりであった。

もう一つは、一貫したチームの基本戦術とチームメイトの特徴を選手同士が理解していたことだ。今回の代表チーム結成にあたっては、昨年4月から毎月開催してきた技術向上練習会の参加者から選抜し、今年1月には毎週練習試合を行い選手の可能性を試しながらチーム力を高めてきた。この結果、今日の試合のようにビハインドの状況に陥っても焦らず自分たちのプレースタイルを続ける自信と粘り強さが備わったのだと思う。

この最強チームならば、3月22日(日)のトレセンフェスティバルで、スピードと運動量に勝る高校選抜チームにも互角以上の戦いができるであろう。

【目標】このチームでの最終戦、トレセンフェスティバルでの高校選抜戦を勝利で締めくくる！

【ギャラリー】

～総力戦で最後まで諦めず全員で掴んだ優勝！～



~選手・スタッフ・応援者全員が一致団結した最強チーム！~



~西浦キャプテン(左から3人目)練習から先頭に立ってよくチームを纏めてくれました!~



【記録】通算戦績 4勝0敗、得点15、失点3 <H21.2.22 現在>

得点		アシスト	
3得点	高須、松本、村山	2アシスト	鳥越、辻本、高須
2得点	鳥越、藤井、中尾	1アシスト	西浦、吉井、松本、中尾、九鬼

最終戦(トレセンフェスティバルでの高校選抜戦)までカウントします

以上
